日露青年交流事業

参加者の声

（2015 年版）

日露青年交流センター

Японо-Российский центр
молодёжных обменов

（はじめに）

日露青年交流センターでは、1999 年の事業開始以来、短期招聘・派遣事業等を通して日露の青年交流を図る様々なプログラムを実施してきました。2015 年末の時点で、これまでに招聘、派遣した両国の青年の人数は約 5,600 人にのぼります。本冊子では、2015 年に実施した主要な招聘、派遣プログラムの概要及び同プログラムに参加した人の感想を紹介しています。日露青年交流事業に関心のある方にぜひ、ご一読願いたく、この度本冊子を作成しました。

日本語履修高校生グループ招聘プログラム(2015 年 11 月)

(日露青年交流センター設立の経緯)

1998 年 11 月、日露首脳会談(小渕総理、エリツィン大統領)において、両国首脳は日露間の国民レベルの人的交流を抜本的に拡充することで合意し、1999 年 5 月、両国の政府間協定に基づき国際機関として設置された日露青年交流委員会の事務局として日露青年交流センターが設立されました。

2008 年 4 月、両国首脳(福田総理、プーチン大統領)は、日露青年交流の規模を一層拡大して、日露合わせて毎年 500 名規模の交流を実施することで合意しました。

2012 年にこの目標が達成されたことを踏まえ、2013 年 4 月の日露首脳会談で両国首脳(安倍総理、プーチン大統領)は、青年交流が日露関係の着実な発展のために特別な意味を持つことを確認し、両国間の青年交流をさらに拡大することを支持しました。

日露青年交流センターは日露青年交流委員会の決定に基づき、(1)短期招聘・派遣事業、(2)日本語教師派遣事業、(3)若手研究者等に対するフェローシップ供与事業の 3 つを主な事業として、1999 年 7 月の事業開始以来、これまでに約 5,600 人に及ぶ日露の青年交流を実施しています。

目　次

(派遣プログラム)..... 1

日本人高校生派遣(2015 年 3 月 2 日～3 月 9 日)..... 1

サッポロ未来展 (2015 年 5 月 27 日～6 月 3 日)..... 2

囲碁交流プログラム(2015 年 6 月 29 日～7 月 7 日)..... 3

日・サンクトペテルブルク ポップカルチャー交流 (2015 年 7 月 3 日～7 月 9 日)..... 4

リャザン空手交流(2015 年 8 月 3 日～8 月 10 日)..... 6

サハリン・モーターサイクルスポーツ交流(2015 年 8 月 13 日～8 月 19 日)..... 7

ウラン・ウデ庭園造園交流(2015 年 8 月 18 日～8 月 29 日)..... 8

サンクトペテルブルク　ユーラシア学生フォーラム(2015 年 9 月 1 日～9 月 8 日)..... 9

アニメ・オタク文化学生サミット(2015 年 9 月 2 日～9 月 7 日)..... 10

ロシア語学習青年交流(2015 年 9 月 8 日～9 月 13 日)..... 11

カリーニングラード青年交流(2015 年 9 月 9 日～9 月 15 日)..... 12

モスクワ能楽交流(2015 年 9 月 20 日～9 月 25 日)..... 13

サハリン音楽フェスティバル「国境なき平和」(2015 年 11 月 7 日～11 月 11 日)..... 14

日本拳法　モスクワ交流(2015 年 11 月 19 日～11 月 25 日)..... 16

(招聘プログラム)..... 17

ペルミ文化交流グループ招聘プログラム(2015 年 5 月 25 日～5 月 31 日)..... 17

日本語学習青年交流グループ招聘プログラム(2015 年 6 月 30 日～7 月 8 日)..... 18

アニメ・コスプレ日露青年交流グループ招聘プログラム(2015 年 10 月 6 日～10 月 13 日)..... 19

日本語履修大学生グループ招聘プログラム(2015 年 10 月 20 日～10 月 27 日)..... 20

日本語履修高校生グループ招聘プログラム(2015 年 10 月 31 日～11 月 8 日)..... 22

極東地区柔道家交流グループ招聘プログラム(2015 年 11 月 29 日～12 月 6 日)..... 23

日露学生フォーラム招聘プログラム(2015 年 12 月 1 日～12 月 8 日)..... 24

（派遣プログラム）

日本人高校生派遣(2015 年 3 月 2 日~3 月 9 日)

派遣人数:16 名

（プログラムの概要）

2014 年に開催したロシア人日本語履修高校生招聘プログラムの答礼事業として、ロシア語履修経験のある高校生を含む日本各地の高校生を派遣しました。現地ではホームステイをしながら、学校の授業への参加、バラライカやロシア民族舞踊の体験、ロシア文学のゆかりの地への訪問などを行いました。

（参加者の声）

ロシアに行く前は、いろいろな戸惑いと不安があったが、着いた日の夜に無くなった。ホームステイ先の女の子とその夜に自己紹介含め夜ふかししいろいろ話せたからだ。その日の晩に出されたスープはいろいろな意味で温かく、心身にしみた。今回のロシア滞在で一番心に残っている料理だ。毎晩のように夜ふかししたし、彼女の学校の友達としたホームパーティーでは本当にいろいろ遊び、話し、楽しかった。今でも彼女らとは連絡を取っていて、近いうちにまた日本で会う予定だ。

（早稲田大学高等学院　佐藤　健）

ロシアの学校で一番衝撃を受けたのは文学の授業だ。ロシアの詩人の祖国に対する詩を読み、「あなたにとって祖国とは何か」という質問に答えるものだった。質問への答えは、「祖国、ロシアは私の第二の母」、「私の人生と運命づけられた場所」などであった。到底学生とは思えない答えだった。また、劇も披露してもらった。そのほとんどが日本語によるものだった。生徒たちの日本語のレベルに驚かされた。これほど日本語を勉強してくれたという嬉しさもあった。

（関東国際高等学校　五十嵐　龍児）

サッポロ未来展（2015 年 5 月 27 日~6 月 3 日）

派遣人数:10 名

（プログラムの概要）

サッポロ未来展は北海道にゆかりのある若手美術家が運営の中心となり、2001 年より活動を続けている美術展です。2015 年は、同サッポロ未来展からの提案を受け、若手美術家グループをサハリンに派遣しました。滞在中は、サハリン州立美術館にて第 14 回サッポロ未来展を開催した他、絵馬制作ワークショップなどを通じて、ロシアの青年と交流する機会を持つことができました。

展覧会オープニング

サハリン州政府文化大臣より「文化大臣奨励賞」受賞

（参加者の声）

様々なイベントに参加し、サハリンの歴史や文化について、たくさんのことを知ることができた。北海道の若手作家の一人として芸術を通じてサハリンの人々と北海道双方の文化理解と芸術交流による絆を深めていくことで、サハリンが以前より身近に感じることができるようになったと思っている。

（札幌武蔵野美術学院　鎌田　歩）

今プログラム参加で強く感じたことは、ユジノサハリンスクで出会った人たちの優しさと、芸術教育の水準の高さです。子ども芸術カレッジの校長先生の「子どもは全てを持っている。感性や個性それを引き出すのが我々の役割だと思っている。」という言葉がとても印象的でした。私自身も、これからの教育にも活かしてゆきたいと思います。

（青森明の星中・高校　小野寺　彩子）

囲碁交流プログラム(2015 年 6 月 29 日~7 月 7 日)

派遣人数:12 名

(プログラムの概要)

2014 年にロシア人棋士たちを日本に招聘した答礼としてロシア囲碁連盟より招待を受け、日本人棋士チームをモスクワ、サンクトペテルブルクへ派遣しました。サンクトペテルブルクで行われた全ロシア囲碁大会に出場したほか、プロ棋士によるセミナーも行いました。

モスクワの選手たちと

全ロシア囲碁大会

モスクワの選手との対局

(参加者の声)

ロシアの方々はとても気さくで、一つの質問にもたくさん言葉を尽くして答えてくださいました。ロシアへの囲碁普及が思った以上に深く広くなされていたこと、ロシアの方々がとても対局マナーに関心があるということに感銘を受けました。

(東京大学　堤　建太朗)

「日本人は〇〇な打ち方だけど、ロシア人は〇〇だ」、というイメージがあるかと思われますが、あまりそういった傾向は感じませんでした。フィールドが広い囲碁、十人十色ということなのでしょう。みなさんつい先日行われた日本の棋戦なども知っていて、よく勉強しているなあと逆に襟を正された思いでした。

(國學院大学　平野　佑騎)

日・サンクトペテルブルク ポップカルチャー交流（2015 年 7 月 3 日~7 月 9 日）

派遣人数:12 名

（プログラムの概要）

サンクトペテルブルクの日本ポップカルチャー愛好家イベント"AniCon"の協力により、日本人ポップカルチャーグループ(アイドルグループや声優、イラストレーターなど)を派遣しました。サンクトペテルブルクでは現地最大の日本ポップカルチャーファンイベントに参加したほか、ポップカルチャー愛好家の皆さんと交流をしました。孤児院やサマーキャンプへの訪問も行い、日本のポップカルチャーの普及に努め、ロシアの皆さんから温かいおもてなしを受けました。

サマーキャンプにて

孤児院の皆さんと

（参加者の声）

7 月 3 日～7 月 5 日にかけて開催されたイベントの今年の動員数は 4,500 名。日本からの訪露団員によるライブ、ファッションショー、トークショーなどは大盛況だった。また、別室では訪露団員のイラストレーターによるイラストデモンストレーションも実施され、こちらも盛況だった。 ロシア側のステージはコスプレ大会やカバーダン

ス、カラオケなどで、こちらの盛り上がりもすごかった。

サマーキャンプ訪問やマロオフチンスキー孤児院の訪問では、子どもたちと一緒に歌ったり、踊ったり、イラストを使ったクイズをしたり、写真を撮ったり、子どもたちの質問に答えたりするなどし、子どもたちの元気な姿と笑顔に団員一同、心が洗われたようだった。また、子どもたちが心から喜んでくれる姿に、感動のあまり目頭を熱くする団員も多かった。日露双方の参加者の心に、お互いの国の明るい灯がともる交流となった。改めて文化による価値観の共有の重要性を実感する 5 日間でもあった。

（櫻井　孝昌）

日露コスプレイヤーの交流

ぜひ、もっと多くの、ポップカルチャーをはじめとして日本に興味を持ってくださるロシアの方々と出会い、交流を深めたいです。「好きなものが共通する」ことは国籍や風習、性別などのあらゆる隔たりを一気に突破できる要素だと思いますし、日本のアニメが世界中で愛されているいま、もっと日本と世界は近い距離になれると信じています。声優として自分にできる文化外交をこれからも模索していきたいです。

（上坂　すみれ）

オタクに共通することは「興味を持つと、とことんのめり込む」事だと思っています。ロシアの方々が日本のアニメや漫画が好きということは日本にも興味を持ってくれているということであり、そういった意味で、日本のサブカルチャーは本当に偉大であり、世界をつなぐ架け橋になっていると今回の訪露で強く感じました。 アイドルや声優のライブでは観客の一体感が素晴らしかったです。イラストレーターによるイラストもとても喜ばれていましたし、サマーキャンプや孤児院に訪問した際、メイドさんはやはり子どもたちにとても人気だったので、世界共通、可愛いは正義なんだ、と実感しました。オタクの心は世界共通だと言うこと、今回の訪露で経験したことをこれから日本で伝えていきたいと思います。

（こまり）

ステージと一体となる観客の様子

リャザン空手交流(2015 年 8 月 3 日~8 月 10 日)

派遣人数:9 名

(プログラムの概要)

本プログラムは空手交流および、リャザン大学における日本語学科開設 10 周年を記念し、日露の若者による相互の文化理解促進をテーマに実施されました。

空手セミナー

学生会議の様子

(参加者の声)

世界的に普及している競技武道ではなく、伝統的な技術についてのロシア人たちの関心の高さに驚いたものです。わが国では、戦国末期より江戸中期にかけて武術は武芸として、禅の思想と結びついて精神性の高い身体文化に高められた時期があります。この時期には、武術は殺人の技法にはあらず「活人剣」として人格形成のための手段としての地位を確立していきます。このような内容に彼らは強い関心を示し、技法だけではなく、教授プログラムや継承のシステムなどを学ぼうとしています。これからも、若い世代が将来の日露友好の架け橋になってくれることを願っています。 (極真館 岡崎 寛人)

ロシアの若者は日本の現代的な文化を取り入れています。我々も、クラシック・ロシアを勉強するのはもちろんのこと、同時にロシアの若者についても学ぶべきです。何をしたらよいかはわかりませんが、試行錯誤し知っていくことでしょう。そしてロシアと日本の若者同士お互いの距離を縮めていきたい、関係を深めていきたいというのが、私の願ってもやまない今の気持ちであります。

(千葉大学 高田 光)

サハリン・モーターサイクルスポーツ交流(2015 年 8 月 13 日~8 月 19 日)

派遣人数:8 名

(プログラムの概要)

今回のプログラムは平成 26 年 8 月に、北海道の留寿都村を主会場として、サハリンから 9 名の愛好家グループを受け入れて実施された日・サハリン・モーターサイクルスポーツ交流プログラムの答礼プログラムとして行われました。「2015 年 極東ハードエンデューロシリーズ第 2 戦 ユジノ大会」への参加、孤児院訪問、アウトドア体験交流会などを実施しました。

(参加者の声)

ユジノサハリンスク郊外に設定された 1 周 70km の山岳コースでの競技は、日本では考えられないスケールの大きさと難易度でした。競技会に参加しなかった選手は、コルサコフのモトクロス専用コースにて、地元のライダーたちとトレーニングを楽しみました。

小学生たちと

モトクロス以外では、孤児院訪問を行いました。子どもたち 40 名と、院長先生、職員の方が迎えてくれました。まずは、ご挨拶、自己紹介と訪問の目的を説明し、校庭に競技車両 3 台を並べて、子どもたちに触ってもらったり、記念撮影をしたりしました。その後は教室に入り、メンバーが持参した折り紙を配布。集まった子どもたちに、日本の折り紙を体験してもらいました。メンバー全員が、子どもたちと机を並べて、ふれあいを楽しみました。

2 年にわたって行われたモータースポーツ交流が終了し、確実に、今後の民間交流にきっかけになったことを実感しています。今後はより連絡を密にし、お互いに両国の競技会に遠征する機会も増えると思われます。

(団長 春木 久史)

ウラン・ウデ庭園造園交流(2015 年 8 月 18 日~8 月 29 日)

派遣人数:6 名

(プログラムの概要)

本プログラムでは庭師などによるグループをウラン・ウデ市に派遣し、日本庭園の造園および花手前デモンストレーションを行いました。また、日本庭園に関するワークショップを行いました。デモンストレーションには 100 人の観客が来場し、日本側による三味線と、ロシア側による馬頭琴の演奏交換も行われました。

花手前のデモンストレーション

制作した石庭

馬頭琴奏者と三味線奏者

(参加者の声)

作庭した場所は歴史を記念した公園の一角、自然に帰ろうとする樹々の生命力を内在した場所に感じました。ただ、人のもたらした空き缶や割れた瓶も散在する忘れられた場所にも感じました。今回我々が庭を作ることをきっかけにこの場所の意味とウラン・ウデの自然の雄荘さ、自然への温かな眼差しを再確認する場所になっていったらと思っております。

(山田　雄太郎)

担当したワークショップでは主に、垣根の制作を致しました。 ロシアにある素材(柳や白樺)の剪定枝で丁寧に仕事をすることで、日本の竹垣のようなものを表現しようと思いました。ここではある物を生かす、無駄なものはない。そんな精神性が伝わったらと思いプログラムを進めました。僕自身も庭をつくる原点の様なものを再発見でき、非常に面白いワークショップとなりました。

(溝口　達也)

庭や建築は不動産なので、その土地の風土や文化など複雑な要因がそのものの形を決定づけます。これからも今回作った庭が人々の憩いの場所や、手入れして花を植えたりできるよう、参加した庭師たちは余白も十分計算しているようでした。今後今回関わった人たちとともに庭が変化していくことがとても楽しみです。

(若林　勇人)

サンクトペテルブルク　ユーラシア学生フォーラム(2015 年 9 月 1 日~9 月 8 日)

派遣人数:17 名

(プログラムの概要)

本プログラムでは、日露の学生が、環境問題、ビジネス、国際社会などについてのディスカッションをしたほか、模擬国連などを実施し、日露関係の今後について活発な議論を交わしました。

今回のプログラムでは、ロシア人学生たちの勉強に対する熱意に感心しました。この貴重なチャンスを無駄にしないようにと、あらかじめ質問したい事項をリストにまとめている学生もいました。気になったことをすぐ調べたり人に尋ねたりすることについては日本の学生より積極的でした。

(東海大学　貝田 峻志)

学生同士で討論

サンクトペテルブルクでは、皆、口をそろえて「サンクトペテルブルクは古くから様々な民族が共生している」「互いの文化を尊重している」と言うことに驚きました。それが、どの国の人だとしても、皆が持つその共通認識が、多文化共生社会を構成する一要素であるように思いました。

(津田塾大学学芸学部　小野 かつみ)

今回のプログラムでは、常にロシア人の方たちと行動を共にすることができた点が素晴らしかったです。これによって生のロシア人の考え方や価値観、行動基準、ライフスタイルなど日本にいては一生知ることのなかったことを感じ取ることができました。個別の価値観では理解することが難しいことがたくさんあり、戸惑うこともありましたが、お互いのことを話し合い同じ時間を共有することで友人になることができました。

(東海大学　三堀 修)

アニメ・オタク文化学生サミット(2015 年 9 月 2 日~9 月 7 日)

派遣人数:11 名

(プログラムの概要)

神戸学院大学からの提案を受け「日露アニメ・オタク文化学生サミット」グループをモスクワに派遣しました。滞在中はサミットを通じ、日露のアニメ愛好家大学生たちが交流を深めました。

在モスクワ日本大使館　表敬訪問

(参加者の声)

今回の経験を通じて、参加者の間では非常にポジティブなロシア像をつくることができたようである。この滞在でロシアという国を知り、ロシア人について知り、個人的な人脈も構築した。この小さな文化レベルの交流での積み上げが、国家間の友好関係を構築するのではないだろうか。

(神戸学院大学 准教授　岡部 芳彦)

アニメ討論の様子

ロシアのオタクたちと語り合う際に、私の知識はコミュニケーションをとるに当たってとても役に立ちました。アニメオタクじゃなかったら、絶対にここまでコミュニケーションをとることは不可能でしたし、アニメのおかげで素晴らしい出会いをすることができました。

(神戸学院大学　横岡 杏奈)

アニメをただ語るだけではなく、お互いのアニメ事情を知ることができた。あるアニメのフェスティバルでは「舌でアニメは見られない」ということわざを言っているそうだ。「百聞は一見に如かず」と似ている。ロシアアニメのオススメを幾つか聞いた。今回のサミットで聞いた日本のアニメとの違いとロシアアニメの特徴を見つけるためにも、何か作品を観ようと思っている。

(神戸学院大学　住本 咲妃)

ロシア語学習青年交流(2015 年 9 月 8 日~9 月 13 日)

派遣人数:15 名

(プログラムの概要)

シベリア連邦大学文学言語学部の授業参観、学生との市内視察、日本文化センターでの日露文化紹介、ディスカッションなどを行い、大学生や日本文化センターの受講生と交流しました。

参加者集合写真

日露協力しプレゼン準備

(参加者の声)

ディスカッションでは、ステレオタイプについて意見を交わしました。となりに座ったロシア人学生が歴史的なステレオタイプはきっと変わっていくと言っていました。今回の経験が、私たちのロシアに対するイメージを現実に則したものに変える一つのきっかけにできるようにしたいと思います。自分の専門分野がロシアではない私だからこそ、ロシアに関係が無かった人たちを巻き込み、少しでも良いので興味を持ってもらえるようにしたいです。

(東北大学　原田　正輝)

両国が抱くロシア「観」と日本「観」は、その漢字が表しているように「観」られることによって作られたものです。しかしその「観」察は限られた情報に基づき、遠方の地においてひとりでに形成されるものでもあります。2010 年における両国の人的交流は 13 万人にすぎません。これは日米の 411 万人や日中の 514 万人に比べてはるかに少ない数字です。私は、ビザ取得の必要性もなくなり、両国の交流がより盛んになって、«лицом к лицу» (面と向かい合って)新しいロシア「観」と日本「観」が形成されることを心から願うとともに、自分の置かれた立場から少しでも改善に努めていこうと考えています。

(東京大学　福井　祐生)

カリーニングラード青年交流(2015 年 9 月 9 日~9 月 15 日)

派遣人数:5 名

(プログラムの概要)

日露和親条約締結 160 周年を記念してモスクワとカリーニングラードでアニメ「幕末のスパシーボ」を上映し、ロシア市民に日露友好の発端となった史実を紹介しました。また、カリーニングラードにて、日本紹介プログラムを実施し、ロシアの最西端の都市の市民に日本への関心を喚起するための活動を行いました。

プレゼンテーションを行った学校にて

(参加者の声)

日本とロシアそれぞれ文化も言語も違うが、お互い友好関係を築きたいという気持ちは同じであることを認識した。そのような気持ちがあったからこそ、「ヘダ号」にたずさわった当時の戸田村民とロシア人も言葉の壁を乗越え、造船することができたのだ、と感じた。

(沼津市 野田 豊和)

紙芝居上演の様子

富士市作製紙芝居「ディアナ号がやってきた」の上演をしました。私自身、紙芝居が日本独特のものとこの時初めて知りました。若い先生、生徒の皆さんが興味深く聞いて下さり、絵本の贈呈も喜んで頂けてうれしく思いました。

(富士市日ロ友好協会 小穴 裕子)

大好評だったおにぎりの試食

下田市や富士市の歴史とロシアとのかかわりをプレゼンテーションした他にも、おにぎりを作り、映画上映後のお客様たちに振る舞ったりしました。たくさんおにぎりも用意しましたがすぐになくなってしまい、大好評でした。日本に戻り生徒たちにロシアでの経験を語り、少しでも多くの生徒にロシアへ興味を持ってもらうことができたらと思います。生徒たちが将来沖縄から世界へ飛び立ち活躍できる人材となるよう指導に励んでいきたいと考えます。

(興南高等学校 教諭 西銘 健一)

モスクワ能楽交流(2015 年 9 月 20 日～9 月 25 日)

派遣人数:13 名

(プログラムの概要)

本プログラムは、モスクワでの能楽への関心を高めること、それにより日露青年の交流促進を図ることを目的として実施されました。金剛能楽財団より能楽師を派遣し、現地で 2 日間の能楽公演を行ったほか、能のワークショップ、「樂—茶碗の中の宇宙展」開催(プーシキン美術館での重要文化財展示)などを行いました。

(参加者の声)

演劇学校では、能を見たことのない学生たちへ、謡や型を披露した。能独自のメソッドや東西文化の相違への関心だけではなく、人生哲学に関する事柄まで様々な質疑応答が展開された。劇場でのロビー交流会では、公演直後の熱気溢れるなか、囃子方が楽器を持参し説明するなどし、ミニレクチャーを交えながら親睦を深めた。

(金剛 永謹)

終演後の質疑応答の中で「宇宙人がいると思いますか」という質問を受け、私たちはもちろんです、と答えました。この質問の宇宙人という言葉は、正体が分からないもの、死者の魂や幽霊、といったものを含むと思いました。能を演じるシテ(主役)が、死者の魂や幽霊の存在を信じて演じているのか、それとも、主体性・個、をもって演劇をしているのか、つまり「演劇における主体性(演じ方)」を問われていると思いました。演劇学校でも、身体表現や新曲などについて、能楽を利用して何を表現したいのか、ということを問われたように感じました。能の場合はシテが特別な感情をこめることはほぼありません。現在の能の祖ともいうことができる「翁」という能の演目は、神様にささげる能です。

ロシアの場合は、スターリンが宗教を厳しく弾圧し、民衆から信仰・文化を奪いました。そのためにロシアの人々は個人というアイデンティティの確立を目指したとも言われています。この国の演劇も、幾度も国家が崩壊し改まるヨーロッパと同じように、主体性の強いものだと察しました。

一方、日本では、文化の破壊などが全くなかったわけではありませんが、壊滅的なものはありませんでした。ですから能は長い歴史を持ちながらその特色を失わずに済みました。私たちの演じる能は、こうした歴史的背景の恩恵に授かり現代に息づいているということに気づきました。

(山田 夏樹)

サハリン音楽フェスティバル「国境なき平和」(2015 年 11 月 7 日~11 月 11 日)

派遣人数:7 名

(プログラムの概要)

戦後 70 年を機に、平和を願いサハリンで日露合同コンサートを開催しました。演奏したのは北海道とサハリンの若手音楽家たちで、日本人が童謡「ペチカ(暖炉)」を、ロシアの少女たちが童謡「赤とんぼ」を合唱するなどし、音楽を通じて交流を深めました。

児童音楽学校のみなさんと

(参加者の声)

70 年前にここサハリンの地で不幸にして亡くなった日露両国の多くの方々に対する追悼の思い。そして、今こうして国境なき平和を築いていく先にある未来への明るい希望。この両方を感じながら、私は、サハリンと我が北海道の若者たちが奏でる美しい旋律を聴いておりました。

平和とは、「朝起きたらそこにあった」というような簡単なものではありません。多くの人間が、必死の思いで築き上げ、守っていくことではじめて保たれるものであり、だからこそ尊いものであると、おそらく皆さま全員が思っておられるのではないでしょうか。

サハリンと北海道は、古来、人と文化と経済を共有して参りました。日露の国境を挟む現在でもそれは変わらず、政治・経済の両面で大変深く結びついているのです。私たちは共に手を取り、互いを尊重し思いやって、仲

良く生きていくべき運命にあるのだと感じざるを得ません。

このコンサートを出発点として、毎年こうしてこの場で皆さんとお目にかかり、両国の若者たちが奏でる音楽という名の人類の宝物を、共に同じ思いで、同じ感動をもって共有することができるようになったら素晴らしいと思いませんか。そうした希望を音楽の力によってもたらしてくれたサハリンとわが国日本の若き音楽家たちに、心から感謝し、また、エールを送りたいと思います。

（団長　田中　正文）

演奏後の様子

出発前、団長が私たちに「この演奏会は、生きている者だけでなく、死者たちに向けたものでもあることを、どうか意識して演奏してほしい」とおっしゃいました。追悼の意を込めた、「アヴェ・マリア」そして、今こうして平和であるからこそ、様々な国の様々な音楽を勉強、演奏することができているというメッセージを込め、日本の曲のみならず多種多様の国々の楽曲を演奏しました。「里の秋」という曲は、戦争中の母子を描いた歌です。この曲に差し掛かった時、改めて団長の言葉がよぎりました。思わず溢れそうになってしまった涙をこらえながら、歌いました。温かい拍手の中、アンコールとして日本の童謡「ペチカ」を演奏しました。「ペチカ」はロシアを経由して日本へ伝えられたストーブで、部屋と部屋との境目に設置し、2つの部屋を同時に暖めることができます。私たちの役割とは、この「ペチカ」なのだと思いました。暗く冷たい過去の傷に、死者たちはまだ癒えていないかもしれない…これからの日露の関係への希望と、死者たちと日本の間を、暖めようという気持ちで、歌いました。たくさんのロシア人たちが立ち上がり私たちの演奏を称えてくれた光景は、あまりに感動的で、今でも目に焼き付いています。

芸術カレッジでロシア伝統音楽でのもてなし

また、日本人墓地にて慰霊・追悼をした際、「ふるさと」を合唱しました。日本の風景の描写を丁寧に歌い、その情景を少しでも届けたい、という思いでした。

（北海道教育大学　佐藤　奈央子）

日本拳法　モスクワ交流(2015 年 11 月 19 日~11 月 25 日)

派遣人数:11 名

(プログラムの概要)

本プログラムでは日本拳法全国連盟の提案を受け、日本拳法選手をモスクワに派遣し、ロシアで行われた国際大会に参加したほか、モスクワ市立教育大学日本語学科の学生たちとディスカッションなどを行いました。

ロシア古武術連盟の本部道場で約 30 人の有志を対象に 2 時間にわたって日本拳法の講習会を開催。熱気のこもった練習で少しでも正統の日本拳法をロシアに紹介できた貴重な機会であった。

ロシア国際大会の当日は、大勢の選手や観客が集まり、盛大に行われた。ロシアにとって日本選手が参加する初めての国際大会であった。大会は日本選手が 10 人参加して優勝 4 名、準優勝 3 名、3 位 1 名、ベスト 4 が 1 名、予選敗退 1 名となる有意義な結果となった。特に女子は優勝から 3 位を独占する活躍をみせた。大会後はホテルの近くのレストランで晩餐会が開催され、夜遅くまでお互いの健闘を称え合った。

(岩尾　勤)

ロシア人との試合終了後、ロシアの選手に、あなたは身長 2 メートル近くあり力も技もあるのだから正々堂々自信を持って戦えば強いはずだ、と話しました。次の日のロシア選手権ではその選手は正々堂々とした戦いをし、反則なしで優勝しました。私の所へ優勝トロフィーを嬉しそうに持ってきた姿は一番印象に残っています。

モスクワ市立大学日本語学科の学生との交流では、日本の事をいろいろ質問され、こちらもロシアの事をいろいろ質問し、互いに間違った認識をしていたところがあり、それを認識し直すことができ良かったです。

(秋葉　洋一)

（招聘プログラム）

ペルミ文化交流グループ招聘プログラム(2015 年 5 月 25 日~5 月 31 日)

招聘人数:9 名

（プログラムの概要）

ペルミ国立人文教育大学合気道クラブ「北極星」のメンバーを中心に、合気道や音楽に携わる青年を招聘しました。東京では合気道の稽古や茶道などの文化体験、静岡ではピアノ工場や楽器博物館を訪問しました。また、常葉大学短期大学部音楽科の授業に参加し、学生と交流しました。

（参加者の声）

静岡県の常葉大学短期大学部音楽科では、授業に参加して演奏に交じったり歌を披露したりしました。音楽に国境はないことを感じました。日本を知り、文化芸術や科学技術の成果に触れる機会を提供してくださったことに感謝したいです。　（合気道クラブ「北極星」 オレイニコフ ヴィクトル）

学生時代に惹かれたアニメ、文学や詩、音楽などの日本文化すべてに触れられたことは、忘れられない思い出となった。日本人の心を形作る奥深い文化の秘密を明かしてもらえたことはとても嬉しかった。三島由紀夫、大江健三郎、芥川龍之介、松尾芭蕉のような人々や他の芸術の数えきれないくらい多くの巨匠たちをその懐で育てた国の文化に触れる素晴らしい機会に巡り合えて本当に嬉しい。自分の身近な人たちすべてに、日本がどれほど素晴らしい国であるかを語りたい。そしてもっと日本をよく知るために必ず日本に戻ってきたい。本当にありがとう、そしてまた会う日まで！　（ロックグループ「アサヒブーズ」ガイヴォロンスキー ミハイル）

日本語学習青年交流グループ招聘プログラム（2015 年 6 月 30 日~7 月 8 日）

招聘人数：19 名

（プログラムの概要）

ロシアに 6 か所開設されている日本センターなどで日本語を学ぶ青年を招聘し、東京、新潟の日本人青年との交流・日本文化体験をメインとしたプログラムを実施しました。モスクワ、ノヴォシビルスク、エカテリンブルグ、ジェルジンスク、ニージュニー・ノヴゴロド、サンクトペテルブルク、ハバロフスク、イルクーツク、ウラジオストク、ユジノサハリンスクなど 10 都市から参加者が集まりました。

（参加者の声）

様々な場所を訪れたことで、日本を新しい角度から見ることができました。新潟で大学と旅館を訪れたことが楽しかったです。学生の皆さんはとても社交的でした。特に印象に残っているのは茶道体験です。このような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。旅行中にはたくさんの新しく面白い発見がありました。

（ニージュニー・ノヴゴロド　クバソヴァ　オリガ）

プログラムの印象は、本当に素晴らしく、驚くべきものでした。日本の自然は他では見られないものです。東京の目が回りそうな摩天楼、道案内を申し出てくれたフレンドリーな日本の皆さん、私たちを親切に出迎え、訪問を感謝してくれたスタッフと彼らのサービス、私たちが出会った全ての人々が温かく喜んで迎えてくださったことなど、全てが心の奥に深く刻まれました。

（ウラジオストク　アンツポヴァ　エカテリーナ）

アニメ・コスプレ日露青年交流グループ招聘プログラム(2015 年 10 月 6 日~10 月 13 日)

招聘人数:10 名

(プログラムの概要)

ロシア人コスプレイヤーを日本へ招待し、コスプレ日露交流イベントを開催しました。北海道では、札幌市長および苫小牧市長の表敬訪問、コスプレショー、服飾専門学校生との共同授業を行い、東京では、大型コスプレイベントに参加しました。イベント会場来場者を含め合計 25,000 名の日本人との交流がありました。

(参加者の声)

とても内容の充実したプログラムでした。ロシアの別の都市から来たコスプレイヤーや日本のコスプレイヤーと知り合うことができて嬉しかったです。デザイン学校訪問でのワークショップは、物づくりについて新しいことを知る機会となって有益で面白く、あらゆるレベルのコスプレイヤーにとても勉強になったと思います。交流プログラムの発展を願うとともに、もう一度参加したいと思います。

(ウラジオストク　スラヴァンスカヤ　ヤロスラヴナ)

札幌も東京も素晴らしかったです。自然は美しく、人々は親切でした。専門学校の学生たちがはにかみ屋で親切でとてもよかったです。もちろん私たちが行った、ほかのすべての場所もよかったです。もっと歩きまわる時間が欲しかったです。

(ウラジオストク　ペトロヴァ　エカテリーナ)

このプログラムに参加できて感謝したいです。本当に素晴らしかったです。自分の目で夢の国を見ることができました。何よりも夢のように親切で礼儀正しく、いつでも助けてくれる人々が印象に残りました。

(アルタイ共和国　ボロトヴァ　ユリア)

日本語履修大学生グループ招聘プログラム(2015 年 10 月 20 日~10 月 27 日)

招聘人数:29 名

(プログラムの概要)

ロシア各地の 22 大学で日本語を学ぶ学生 29 名を招聘して、東京と三島を訪問し、青年交流を行いました。日露修好 160 周年にあたる今年、ゆかりの地(戸田、下田)を巡ることで日露関係史についても理解を深めることができました。

(参加者の声)

とても面白く、充実した、ためになるプログラムでした。日本語を練習することができ、また日本人大学生と知り合うことができ嬉しいです。こうして日本人とロシア人が交流することで、国際関係が強化されると思います。

(ノボシビルスク シェフチュク イリーナ)

一週間でとても多くの場所に行き、見学することができました。文化を知ることもでき、多くの情報や歴史的事実を知りました。例えば、プチャーチンや、ペリーの来訪に続く開国についてです。日本人学生と交流したおかげで、会話能力を向上させることができ日本の生活の特徴について知ることもできました。総じて、このプログラムは多くの新しいことを知って、日本語の練習をして、さらに日本語や日本文化の勉強を深めるためのモチベーションを与えてくれる素晴らしい機会となりました。

(ユジノサハリンスク ラプシナ マリア)

このプログラムは一生忘れられない思い出になるでしょう。幼い時から日本文化に興味を持ち、日本に行きたかった私にとって、この経験はとても大切なものです。夢は叶います。

一週間はとても充実していて、残念ながらあっという間に過ぎてしまいました。こんなに早く日本を去らなければならないのはとても悲しいです。日本に行くことを可能にしてくれたすべての人に感謝します。ありがとうございました。

（ニージュニー・ノヴゴロド　ドガドヴァ　ダリア）

このプログラムは、日本語を勉強している人にその国を「内側から」知り、文化を理解し、伝統や歴史を体験する素晴らしいチャンスを与えてくれると思います。

このプログラムを通じて、日本をいろいろな角度から見ることができました。東京の高層ビルと戸田の静かな町並みとが共存していること、技術的な進歩と長年の伝統とが共存していること、そして公園ではにぎやかな若い男性が浴衣を着た若い女の子と同じベンチに座っているようなところを。

日本は驚くほどコントラストのある国であり、参加者の多くはその魅力を感じていたと思います。最も重要なのは、このプログラムは私にとって、いつかまた日本に戻ってきて、何か驚くような発見をするために、日本語と日本文化の勉強を続けるための強力な刺激となったことです。日本は本当に興味の尽きない国ですから。

（カムチャッカ　レジキナ　タチヤナ）

日本語履修高校生グループ招聘プログラム(2015 年 10 月 31 日~11 月 8 日)

招聘人数:22 名

(プログラムの概要)

ロシア各地で日本語を学ぶ 15 歳から 17 歳の生徒 22 名が参加しました。滞在中は、都内のロシア語を学ぶ日本人高校生と積極的に交流し、松本市では茶道や書道体験などを通して日本の歴史・文化を学びました。

(参加者の声)

初めての海外渡航で日本に来ることができて、とてもうれしいです。日本の若者は、皆とても礼儀正しく、親切でした。時々分かりにくい私の日本語を理解しようとしてくれてありがとうございました。また、言葉のレベルはあまり重要なことではなく、お互いが理解し合うことができました。今回のプログラムのおかげで、これからもっと日本語と日本文化を深く学びたいという意欲が高まりました。どうもありがとうございました。

(サンクトペテルブルク シャポヴァル エリザヴェータ)

一番気にいったのは、松本です。2 日間、日本の伝統的な生活を体験しました。大浴場については、一編の詩が書けるほどです。松本城は、上まで登るのはたいへんでしたが、大好きになりました。 東京にはすっかり慣れました。ほんの数日で町に慣れるなんて不思議なことですが。東京では道に迷うことができることが、一番気にいったことです。見学は、全てが良かったですが、一番印象的だったのは、江戸東京博物館と東京タワーです。私は東京を離れたくありませんし、ここに住んで勉強したいと思っています。次に日本に来るときは、旅行ではなく、一生住みたいと思います。

(サンクトペテルブルク サファロヴァ ギュリナル)

極東地区柔道家交流グループ招聘プログラム(2015 年 11 月 29 日~12 月 6 日)

招聘人数:7 名

(プログラムの概要)

筑波大学での柔道部との合同練習、ロシア語授業の参観、体育授業の見学、また文化プログラムとして、日光視察、温泉を体験した。プログラムの終わりには、「柔道グランドスラム東京 2015」を見学した。

(参加者の声)

すべてが素晴らしかったです。特に岡田監督の柔道指導が印象に残っていて、良い稽古ができたと思います。また、筑波大学柔道部との合同練習や、「柔道グランドスラム 2015」を見学できたことも良かったです。また日本に来られたら嬉しいです。

(極東連邦大学 バキラ デニス、同シェフツォフ アンドレイ、太平洋国立大学 ゴルマコフ ピョートル)

日露学生フォーラム招聘プログラム(2015 年 12 月 1 日~12 月 8 日)

招聘人数:30 名

(プログラムの概要)

筑波大学と共催で、第 7 回日露学生フォーラム 2015 を実施しました。「これからの日本とロシア～過去を踏まえ、現在(いま)を生き、未来へとつなぐ～」を全体テーマに議論を交わしました。 ロシア側からは 17 校 30 名の学生が参加、日本側は、当センターの公募による 11 大学 16 名、筑波大生 14 名計 30 名が参加しました。主なプログラムとして、筑波大学での分科会、総括発表等を 2 日間にわたって実施、JAXA つくば宇宙センターを見学、日露通好 160 周年を記念した伊豆半島の戸田周辺視察、日露学生の都内散策を実施しました。またロシア人参加者のみを対象に、日本人学生との都内視察および茶道体験を実施しました。

(参加者の声)

全員が、日露関係の様々な問題の解決についてたいへん真剣に向き合っていました。両国の相互協力活性化のためのたくさんの素晴らしいアイデアが提案されました。これらの案が実現し、我々の友好関係の強化のために利用されることを期待しています。

私たちには日本各地からの友人ができ、日本人学生には、ロシア全土からの友人ができました。私たちは、本当に親しくなりました。この友情がこれから長く続くことを願っています。お互いをよりよく知り、理解し、助け合う機会を与えていただいたことに本当に感謝しています。最後に別れるのは寂しいですが、このフォーラムは私の人生において最も素晴らしい出来事の一つになりました。

(ハバロフスク国立経済・法律アカデミー スコムナ タチヤナ)

日露学生フォーラムに参加し、自身が得たものは一言では言い表せません。しかし大学生活の中で最も思い出深く、今後の人生の糧となった経験の 1 つとして本フォーラムは位置づけられます。印象深かった出来事として具体的には 3 点挙げられます。

1 点目は、分科会当日に向けた日本人学生同士の協力です。日本人とロシア人との関わりというのは非日常的で印象深いのはもちろんなのですが、ロシア人とのディスカッションに向け、大学も居住地も異なる学生が各人で分担された仕事をこなしながら、協力し当日に向け一心に準備を行っていたこともまた、印象深い出来事の 1 つです。

2 点目として、ディスカッション及び、その発表原稿の作成が挙げられます。ディスカッションの際には日本人学生がより具体性のある提案をしようとしていたのに対し、ロシア人学生は具体的なものは避け、より一般的に通じる事柄だけを追及しようとしていた、ということで初め議論はあまり深まっていませんでした。そもそも初めはこのずれに気が付かず、自身はなんで意見が全く聞き入れられないんだ、と少し憤りに近いものを感じていたのも事実です。しかし、ボードを使い彼らの頭に思い浮かべているのがどのようなものなのか、また自分たちとどう違うのかについて明確になった時点から議論が一層深まり、最終的にはお互いの意見の入った結論へとたどり着くことが叶いました。従ってこのような経験から、自分の価値観あるいは思考様式がもしかしたら相手と違っているのかもしれない、と疑うことや異なる思考様式であるならば、どの点は妥協できるのか、どの点は主張するべきなのかについて学ぶことができました。

3 点目はロシア人との友情です。本フォーラムを通じて多くのロシア人学生と親しくなりましたが、中でも、私は 1 人のロシア人学生と親友と呼べるほどに仲良くなりました。彼女と私は双方に母語ではない英語で、会話のやりとりに苦戦する面もありましたが、お互い伝えようとする心を持って接し、またそれをいとわなかったことで、本当に色々な事柄について語り合いました。初めは趣味や家族についてなどについて話していたのですが、その内容は次第に深まり、お互いの国の情勢や北方領土、国際問題についてまで夜通し語り合いました。このことを後で振り返ってみると、あの瞬間こそが、利害関係のない学生だからこそ築ける友好関係の構築の一環となっていたのではないかと感じました。今でも彼女とは連絡を取り合っており、いつかロシアまで会いにいきたいと思っています。

（筑波大学　重入　美穂）